

7-2. 制御の切換

・室外機の制御内容は、下記のとおり基板上的のディップスイッチと7セグ上のP〇〇にて切換えることができます。

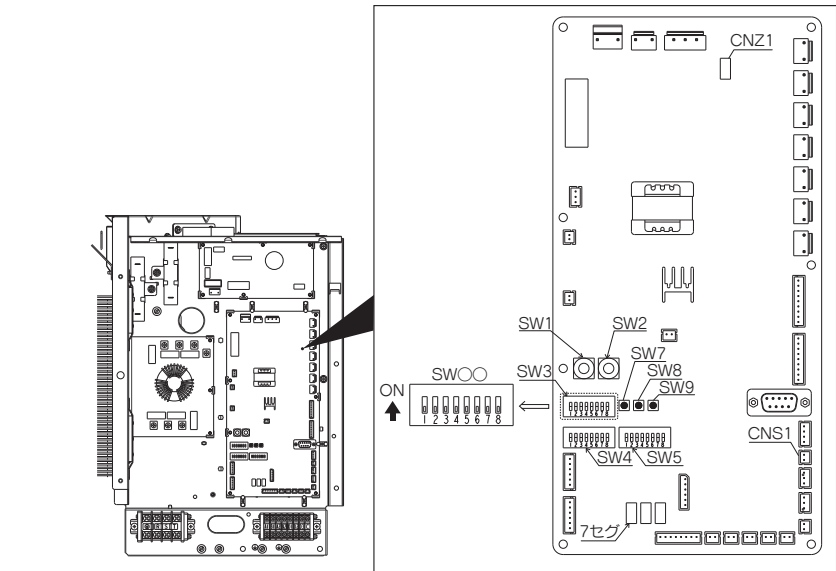
(7セグ設定方法)

(1) 7セグ上のP〇〇設定方法

- 3桁7セグ上の表示をSW8(7セグ表示アップ: 1位)とSW9(7セグ表示アップ: 10位)で切換えることができます。
- 識別アルファベットには“C”、“P”がありC01⇒C02…C99⇒P01⇒P02…P99の順で表示されます
P01～P09の設定で下表にある制御切換えをすることができます。

(2) 機能割り当て番号の設定

- P01～P09には以下表にある機能割り当て番号があります。機能割り当て番号を室外機に記憶させることで運転制御します。
記憶した制御内容は電源を再投入しても記憶した制御で運転します。
- 7セグ上P00表示中にSW7を連続3秒間押すとデータ表示部が点滅します。この状態で機能割り当て番号の設定が可能になります。
- SW8(1位)で機能割り当て番号の切換えをしてください。
- データ表示部が点滅した状態からSW7を連続3秒間押すとデータ表示部が点灯に変わり、書き込みが完了します。
点滅中に10秒間SW入力が無い場合は自動で書き込みモードを終了します。自動終了した場合は内容が反映されないためご注意ください。



7セグとSW〇〇の位置

制 御 切 換 方 法	制 御 切 換 内 容	
基板上 SW設定	7セグ上 P〇〇設定	機能割り当て番号
SW3-2 を ON	—	既設配管制御切換
SW3-3 を ON	—	配管洗浄運転
SW3-7 を ON※1	外部入力機能割り当てを “2” に設定※1	冷暖強制モード (外部入力端子開放の場合冷房、短絡の場合暖房と固定できます)
SW4-1 を ON	—	室内機同時発停
SW4-1 を OFF	—	室内機個別発停
SW5-1 を ON + SW5-2 を ON	—	冷房試運転
SW5-1 を ON + SW5-2 を OFF	—	暖房試運転
室外機の液操作弁を閉じ、下記に示す順に操作する。 (1)基板上 SW5-2 を ON (2)基板上 SW5-3 を ON (3)基板上 SW5-1 を ON	—	ポンプダウン運転
SW4-7:OFF, SW4-8:OFF※1 SW4-7:ON, SW4-8:OFF※1 SW4-7:OFF, SW4-8:ON※1 SW4-7:ON, SW4-8:ON※1	外部入力機能割り当てを “1” に設定※1	外部入力端子に信号を入力するとデマンドモードになります。 (J13短絡時: レベル入力, J13開放時: パルス入力)
SW5-5	—	通信方式切換 ON: IBSL通信 OFF: SLII
J13: 短絡 (出荷時設定), J13: 開放時	—	外部入力切換 (CnS1) 短絡: レベル入力, 開放: パルス入力
J15: 短絡 (出荷時設定), J15: 開放時	—	デフロスト切換 短絡: 通常デフロスト, 開放: 強化デフロスト
—	P01	運転優先切換 0: 先押し優先 (出荷時) 1: 後押し優先
—	P02	室外ファン防雪制御 0: 制御無効 (出荷時) 1: 制御有効
—	P03	室外ファン防雪制御 ON時間設定 30秒 (出荷時) 10, 30～600秒
—	P05	静音モード設定 0 (出荷時)～3: 能力優先 数値が大きいほど静音効果大 4～7: 音優先 数値が大きいほど静音効果大
—	P06	外部出力 (CnZ1) 機能割り当て
—	P07	外部入力 (CnS1) 機能割り当て

※1 外部入力機能割り当てP07と、SW両方が切り替えられた時に制御が切り換わります。
(例: CnS1を冷暖強制モードの入力に使用する場合P07を2、SW3-7をON。)

7-6. デマンド制御設定

- デマンド制御設定をすることで室外機の運転能力を抑制し、電力ピークカットすることができます。
・デマンド率は定格能力に対する、最大能力の割合を示します。
- 低負荷の条件ではデマンド制御の設定をしても効果が少なく、消費電力量が減少しない場合があります。
過負荷の条件では定格の最大能力も低下するので、デマンド率以上に能力が低下する場合があります。
- デマンド制御設定は以下(1)、(2)の方法で設定できます。

<デマンド制御設定方法>

(1) 外部入力端子からの設定

外部入力機能割り当て(P07)を“1”・デマンド入力に設定且つ、外部入力端子 (CnS1) が開放時に基板上的のディップスイッチSW4-7,SW4-8の切換えに応じてデマンド率を設定することができます。

SW4-7	SW4-8	デマンド率(%)
OFF	OFF	80
ON	OFF	60
OFF	ON	40
ON	ON	0

(2) リモコンからの設定

室内機のリモコンからピークカットタイマーによるピークカット率信号を受信した場合に設定されたデマンド率で運転します。
複数の室内機からピークカット信号を受信した場合は、デマンド率の一番低い要求で運転します。

注) 上記(1)、(2)の設定が複数同時に成立した場合はデマンド率の一番低い要求が優先されます。

また、静音モードとデマンド制御の設定が同時に成立した場合は互いの最も低い要求で運転します。

8. 試運転・引渡し

8-1. 運転を始める前に

- 電源端子台と設置面を500Vメガーで測って1MΩ以上であることを確認**ください。
据付け直後、もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合には、圧縮機内に冷媒が溜まることにより、電源端子と接地端子の絶縁抵抗が1MΩ近くまで低下することがあります。
絶縁抵抗が1MΩ以上ある場合は、元電源を入れてクランクケースヒータを6時間以上通電することにより、圧縮機内の冷媒が蒸発しますので絶縁抵抗は上昇します。
- 電源投入前に信号線端子台抵抗が100Ω以下の場合は、電源線を信号線端子台に接続している可能性があります。6-3の抵抗値の目安を参考に配線を確認してください。
- 運転6時間前に必ず電源をONとし、クランクケースヒータに通電してください。圧縮機が故障する原因となります。**
クランクケースヒータ通電後、上記時間が経過するか圧縮機内部の温度が上昇しないと圧縮機が運転しない場合があります。(圧縮機保護のため) 7セグLEDに「dLO」と「LO〇〇」(残り時間表示,360～001) が交互に4秒ずつ表示されている場合は、クランクケースヒータ通電により圧縮機内部の温度が上昇してから試運転を行ってください。
- 圧縮機底部が暖かくなっていることを確認してください。**
- 室外機液操作弁(ガス・液)の両方は必ず全開にしてください。閉のままだと運転できず圧縮機が故障する場合があります。
- 全室内機の電源が入っていることを確認してください。一部の室内機電源が入っていない場合、故障の原因になります。**
- 電源ブレーカ投入後1回目の運転について
電源ブレーカ投入後1回目の起動において、圧縮機の油上がりを防止するため、リモコンに「運転準備中」が最大で30分間表示される場合があります。故障ではありませんので、「運転準備中」の表示が消えるまでお待ちください。

ご注意
試運転前に操作弁(ガス・液)の全開をチェックしてください。閉状態では圧縮機故障の原因になります。

8-2. 試運転

(1) 室外機からの試運転

室外基板のSW5-1とSW5-2のスイッチにより、外部入力端子のON/OFFにかかわらず室外から試運転ができます。はじめに試運転するモード(冷房/暖房)をお選びください。冷房試運転の場合はSW5-2をONに、暖房試運転の場合はSW5-2をOFFにしてください。(工場出荷時はOFFです。)
次にSW5-1をOFF⇒ONにすることで、接続されているすべての室内機を運転します。試運転終了後はSW5-1をOFFとしてください。

ご注意: 1) 試運転中は、室内機のリモコンからの操作(変更)はできません。(集中管理中の表示がです。)

2) 既設配管流用時は、試運転前に「8-3.既設配管流用/配管洗浄運転」の記載内容に基づき配管洗浄を実施してください。

(2) 室内側からの冷房試運転方法。リモコンを次の手順で操作してください。

- 冷房試運転の開始
① **「運転/停止」** ボタンを押して運転します。
- 「運転切替」** ボタンにより「冷房」を選択します。
- 「試運転」** ボタンを3秒以上押し、**「項目 ◆で選択」** → **「[セット] で決定」** → **「冷房試運転▼」** と表示が切り換ります。
- ④ **「冷房試運転▼」** の表示で、セットボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は「冷房試運転」となります。
- ⑤ 冷房試運転解除
⑥ **「運転/停止」** ボタンまたは、温度設定 **「△」** **「▽」** ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。「冷房試運転」表示が消灯します。

ご注意: 配管工事者の方へ、または電気工事者の方へ

試運転終了後、お客様へお引渡しの際に、電装品箱のふた、本体パネルが取り付けであることをもう一度ご確認ください。

7セグ上で外部入力機能割り当て (P07) を切り換えることで外部入力端子の機能を切り換えることができます。外部入力端子に信号を入力すると下記の機能が有効になります。

外部入力機能割り当ての設定値	外部入力端子短絡時	外部入力端子開放時
0: 外部運転入力	許可	禁止
1: デマンド入力	無効	有効
2: 冷暖強制入力	暖房	冷房
3: 静音モード1※1	有効	無効
4: 予備		
5: 室外ファン防雪制御入力	有効	無効
6: 試運転外部入力1 (SW5-1同等)	試運転	通常
7: 試運転外部入力 (SW5-2同等)	冷房	暖房
8: 静音モード2※2	有効	無効
10: A/F 定期点検表示	有効	無効
11: A/F 異常表示	有効	無効

※1 外温によって有効/無効を切替える。

※2 外温によらず常に有効。

7セグ上のP06を切り換えることでCnZ1の外部出力機能を切り換えることができます。

0: 運転出力
1: 異常出力
2: コンプレッサ出力
3: ファンON出力
4～9: 予備

7-3. 外部入出力端子仕様

名 称	用 途 (工場出荷時)	仕 様	基板側コネクタ
外部入力CnS1	外部運転入力 (工場出荷時短絡)	無電圧接点(DC12V)	ニチアツ B02B-XAKS-1-T (LF) (SN)
外部出力CnZ1	予備出力 (外部出力)	DC12V出力	モレックス 556B-02A-RE

7-4. 室内機個別発停/同時発停切り替え設定

・基板上的のディップスイッチSW4-1の設定で個別発停機能室内機個別発停と同時発停の切換えをすることができます。
SW4-1“ON” : 同時発停
SW4-1“OFF” : 個別発停

注1) 初期設定はSW4-1: ONであり同時発停の設定になっています。同時発停の場合、必ずすべての室内機に同一リモコンを接続してください。
個別発停機能を使用する場合は上記ディップスイッチSW4-1をOFFにしてください。
注2) 同時発停の設定で集中制御機器に接続して使用する場合は、以下の点に注意してください。詳しくは集中制御機器の据付説明書を参照してください。
1. グループ設定が可能な機器 (SC-SL4, SC-SL2NA等) の場合、すべての室内機を同一グループに割り当て、同時に発停するように設定してください。
2. グループ設定ができない機器 (SC-SL1N) の場合、室内機のアドレスは集中制御機器に割り当てず、スーパーリンクアダプタを用いてすべての室内機が同時に発停するように設定してください。

7-5. 静音モード設定

- 静音モード設定により室外機の運転音を低減させることができます。ただし静音効果の大きい設定ほど能力低下も大きいためご注意ください。
- 静音モードは以下①～③の方法で設定できます。

<静音モード設定方法>

(1) 室外機外部入力端子 (CnS1) からの設定

STEP1: 外部入力機能割り当て (P07) を“3”・静音モード1もしくは“8”・静音モード2に設定且つ、外部入力端子 (CnS1) が短絡で静音モードに設定されます。
※静音モード1と静音モード2で優先運転が異なります。目的に応じて選択してください。

静音モード1の場合: 能力優先
静音モード2の場合: 音優先

STEP2: 静音モード1 (能力優先) の場合外部入力機能割り当て (P05) を“0～3”、静音モード2 (音優先) の場合“4～7”に設定してください。
数値が大きいほど静音効果大です。(初期設定は0になります。)

(2) 室内機リモコン入力からの設定

接続されるいずれかの室内機(リモコン入力)から静音モードの信号が送信された場合、静音モードに設定されます。
外部入力機能割り当て (P05) の“0～7”の設定に応じて静音モードで運転されます。数値の大きいほど静音効果大です。(初期設定は0になります。)

(P05) 設定が0～3の場合: 能力優先
(P05) 設定が4～7の場合: 音優先

注) 上記(1)、(2)の設定が同時に成立した場合は(2)によるリモコンからの操作が優先されます。
また、静音モードとデマンド制御の設定が同時に成立した場合は互いの最も低い要求で運転します。

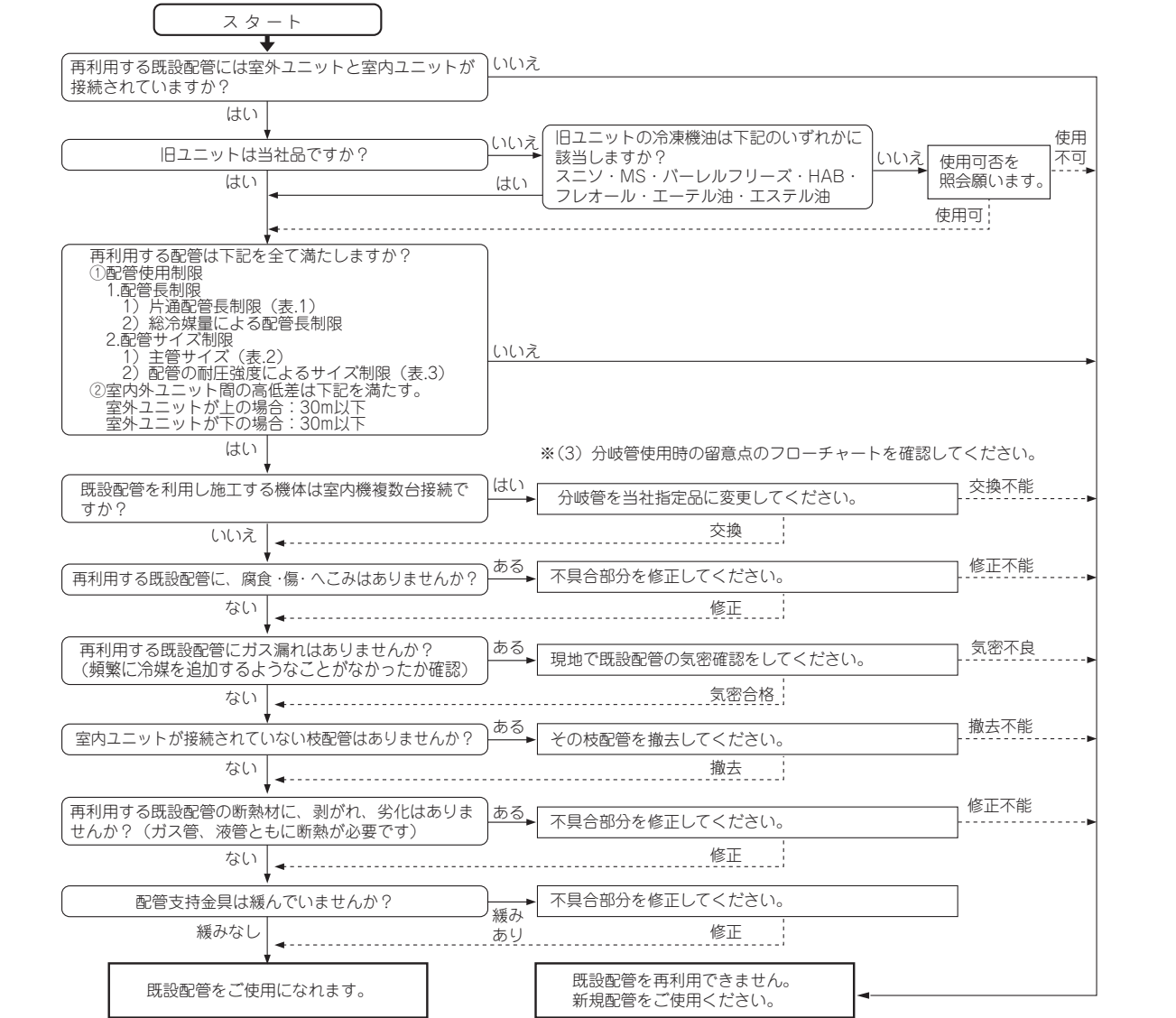
8-3. 既設配管流用/配管洗浄運転

1. ご使用の前に確認いただきたい事項

(1) 既設配管流用時の条件

注 意	ポ イ ント	配 管	この手順書での記載項
クリーン (CLEAN) ・配管内にゴミがないこと		(a) 既設配管は既設機ユニットに接続された状態であること。 外れた状態では、既設配管内に雨水、空気が浸入し配管内が錆びている可能性があります。 (b) フロン排出抑制法に従い、確実に冷媒回収を行うこと 冷媒をみだり大気中に放出すると、罰則が適用される場合があります。 (c) 既設配管内の炭化油・異物を除去すること。 内蔵の洗浄回路により、指定の時間洗浄運転ください。 変色した冷凍機油(a)や油以外の残留物が排出された場合は「配管洗浄」または「新規配管」をお願いします。 *冷凍機油の色評はカタログの末頁を参考ください。	⇒1. (2)既設配管流用可否判断フローチャート ⇒2. 既設配管流用時の現地施工手順 ⇒3. 洗浄運転
ドライ (DRY) ・配管内に水分がないこと		(d) 確実な真空引きの実施 -101kPa(-755mmHg) 以下になってから 1 時間以上真空ポンプの運転を実施。	⇒2. 既設配管流用時の現地施工手順
タイト (TIGHT) ・冷媒もれがないこと		(e) 既設配管に腐食・傷・へこみがないこと。更に断熱材の剥れ・劣化がないこと。 (f) R410A 用のフレアナットの使用かつフレア加工の実施。 (g) 設計圧力を確認し、気密試験を確実に行うこと。 (設計圧力4.15MPa以上 (SW3-2 “OFF”) の場合) 規定圧力4.15MPaにて気密試験を行ってください。 (設計圧力3.24MPa以上 (SW3-2 “ON”) の場合) 規定圧力3.24MPaにて気密試験を行ってください。	⇒ 「4-2.配管工事」(P5) をご確認ください。 ⇒ 2. 既設配管流用時の現地施工

(2) 既設配管流用可否判断フローチャート



<配管使用制限>

- 配管長制限
・既設配管流用には片道最大配管長と総冷媒量による配管長制限があります。
下記の制限を満たすことを確認してください。

1)片道最大配管長 ユニット内蔵リニューアルキットによる洗浄運転は右表の範囲内でご使用になれます。 配管長制限を超える場合は、内蔵リニューアルキット以外での配管洗浄が必要です。 最寄の代理店にお問い合わせください。	表1 主管管径 最大片道配管長	φ19.05	φ22.22	φ25.4	φ28.58
		50m		30m	

- 2)総冷媒量による配管長制限
追加封入量が7.48kgを超える配管長ではご使用になれません。
「4-4.冷媒の追加封入」を参照し、追加封入量が制限を超えないことを確認してください。
2. 配管サイズ制限
・既設配管流用には主管サイズと配管の耐圧強度による配管サイズ制限があります。
下記を制限を満たすことを確認してください。
- 1)主管サイズ
主管サイズが右表のいずれかを満たしていることを確認してください。
- | | 液管 | φ9.52 | φ12.7 | φ15.88 | φ25.4 | φ28.58 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 液管 | φ9.52 | φ12.7 | φ15.88 | φ25.4 | φ28.58 | |
| ガス管 | φ19.05 | φ22.22 | φ25.4 | φ28.58 | | |
- 2)配管の耐圧強度によるサイズ制限
既設配管が下記配管使用制限を満たすことを確認してください。
一部の配管仕様ではSW3-2を“ON”（既設配管に応じた圧力制御）とすることでご使用になれます。
配管使用制限を満たさない場合は、既設配管をご使用になれません。
例) ①φ6.35×0.8の場合、O材・OL材でもご使用になれます。
②φ22.22×1.0の場合、O材・OL材の場合、SW3-2をONにしてもご使用になれません。
③φ25.4×1.2の場合、O材・OL材の場合、SW3-2を“ON”にした場合のみご使用になれます。

表3		材料			
配管径×配管肉厚		O材 OL材	SW3-2 (ON/OFF)	1/2材 H材	SW3-2 (ON/OFF)
φ 6.35 × 0.8	×	○	OFF	○	OFF
φ 9.52 × 0.8	×	○		○	
φ 9.52 × 1.0	×	○		○	
φ 12.7 × 0.8	×	○		○	
φ 15.9 × 1.0	×	○		○	
φ 19.1 × 1.0	×	○	ON	○	
φ 22.2 × 1.0	×	×	ON	○	
φ 22.2 × 1.2	×	○	ON	○	
φ 25.4 × 1.0	×	×	×	○	
φ 25.4 × 1.2	×	○ ³⁾¹⁾	ON	○	
φ 28.6 × 1.0	×	×	×	○	
φ 28.6 × 1.4	×	○ ³⁾¹⁾	ON	○	

【参考】設計圧力に必要な配管肉厚
φ25.4 :直管の場合、肉厚1.2mm以上
φ28.58:直管の場合、肉厚1.4mm以上

注) 1：必ず既設配管の材質、配管径、肉厚を確認し、設計圧力（許容圧力）3.24MPa以上であることを確認してください。
上記設計圧力を満足しない場合はC1220T-1/2H・H材を使用してください。

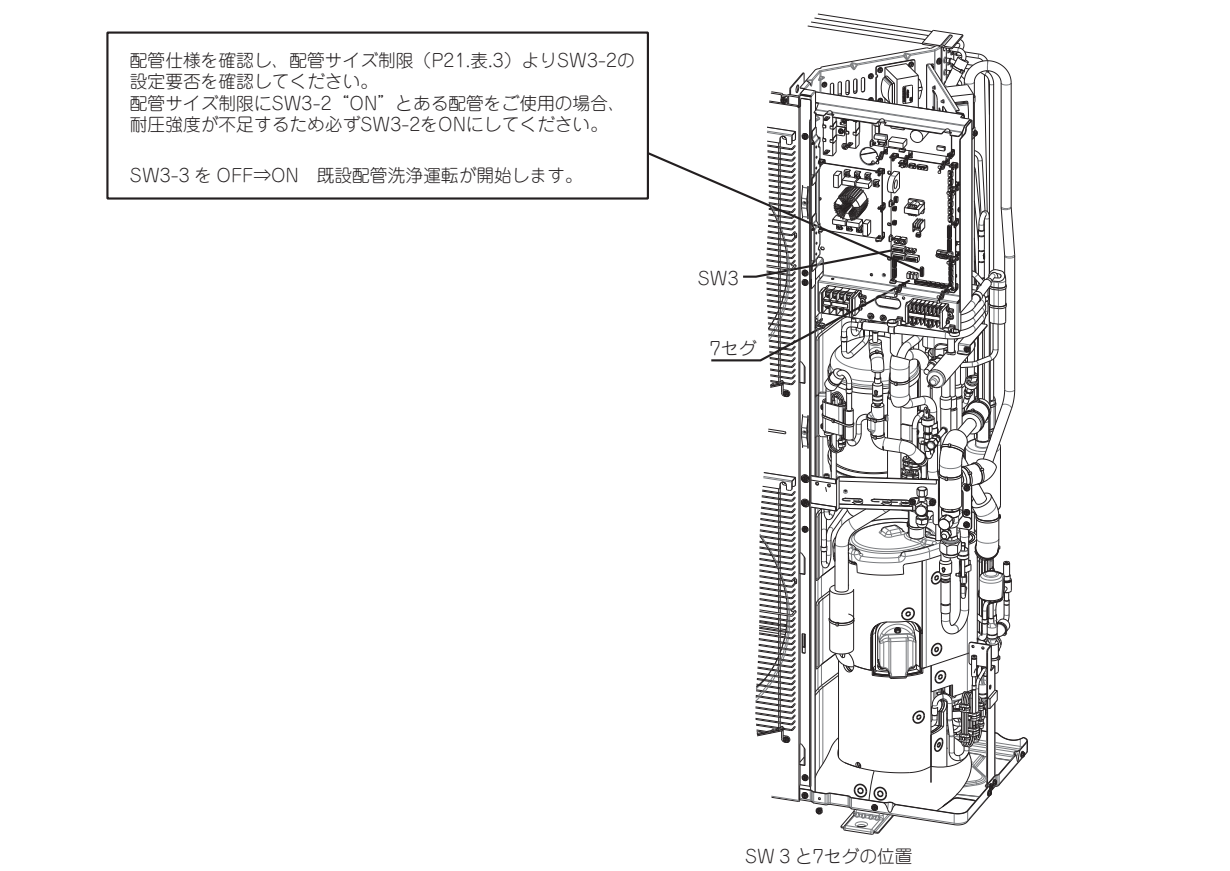
- (3) 分岐管流用可否判断フローチャート
- 室内機複数台接続で既設配管を使用する場合、下記フローチャートで主管・分岐管・分岐後配管の流用可否を確認してください。
- スタート
- 主管・分岐管を合わせた長さは1.配管長制限の1)片道配管長制限(表.1)および2)総冷媒量による配管長制限を満たしますか？
- いいえ → 既設配管の流用はできません。配管を新設してください。
- はい → 流用主管は2.配管サイズ制限の1)主管サイズおよび2)配管の耐圧強度によるサイズ制限を満たしますか？
- いいえ → 主管の流用はできません。配管を新設してください。
- はい → 主管の流用が可能です。
- 分岐後配管サイズは新規ユニットの以下の条件を満たしていますか？
液 管：標準サイズ
ガス管：標準サイズもしくは標準の1サイズアップ
分岐管後の配管サイズは欄外を確認してください。(表1)
- いいえ → 分岐後枝管の流用はできません。分岐後枝管を新設してください。
- はい → 流用分岐後配管は、2.配管サイズ使用制限の2)配管の耐圧強度によるサイズ制限を満たしますか？
- いいえ → 分岐後配管で立ち上げている(ヘッド差がある)ところはありませんか？
- ある → 分岐後配管の流用が可能です。
- ない → 分岐後配管の流用が可能です。
- 既設ユニットは当社製ですか？
- いいえ → 既設配管の分岐管・ヘッドは当社品ですか？※当社品の場合でもオフィス付分岐管など特殊なものは使用できません。
- いいえ → 分岐管の流用はできません。新規にR410A用の分岐管を手配してください。
- はい → 分岐管の流用が可能です。
- ※配管仕様を確認し、配管サイズ制限(表.3)よりSW3-2の設定要否を必ず確認してください。
配管サイズ制限にSW3-2 “ON” とある配管をご使用の場合、耐圧強度が不足するため必ずSW3-2をONにしてください。

21

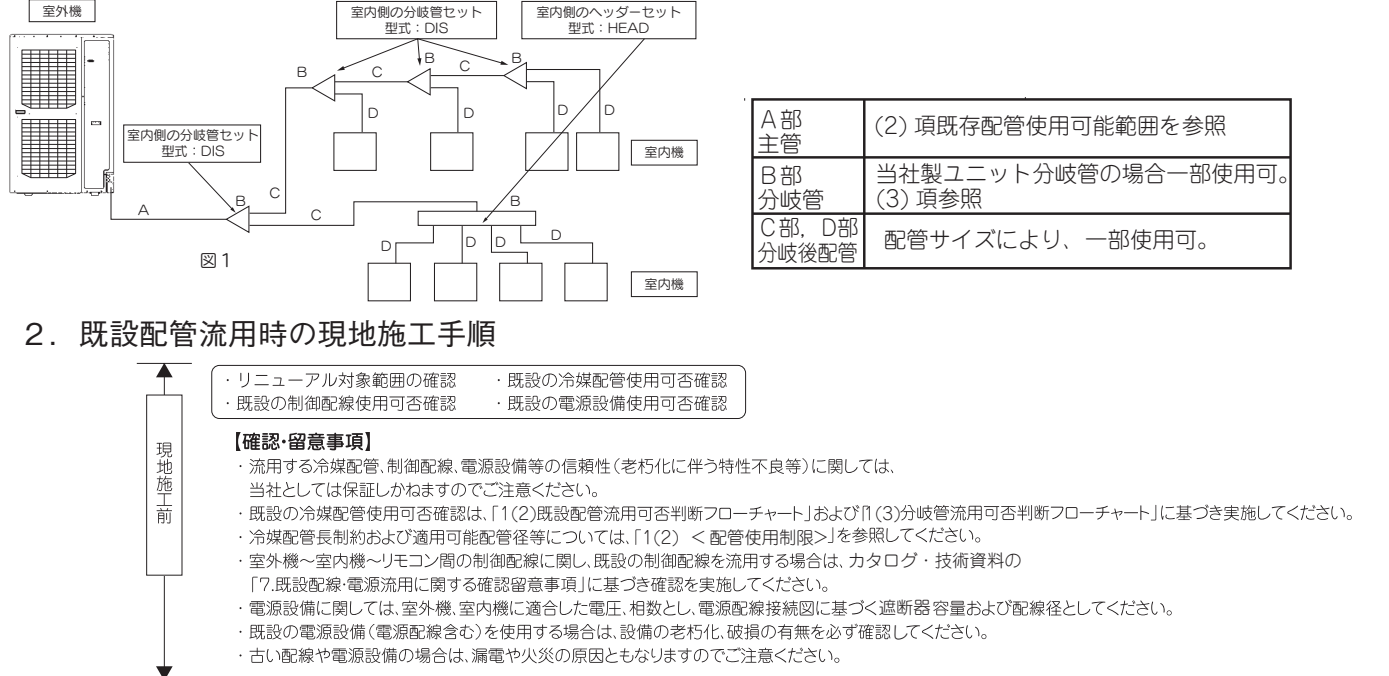
- ②洗浄運転手順
- 下記の順番に従ってチェックしながら行ってください。

順番	操作内容	チェック				
1	冷媒配管工事、電気配線、室内工事が正しく完了しているか①のチェック項目にそって確認してください。					
2	ガス側操作弁を全開にしてください。					
3	液側操作弁を全開にしてください。					
4	既設配管に配管サイズ制限（P21.表.3）よりSW3-2 “ON” に該当する配管サイズをご使用の場合は必ずSW3-2をONにしてください。					
5	SW-3-3をOFF⇒ONで既設配管洗浄を開始します。					
6	洗浄運転中は7セグ表示部にコード表示とデータ表示が4秒間隔で交互に表示されます。 <table><tr><td>コード表示部</td><td>データ表示部</td></tr><tr><td>PCL</td><td>洗浄残り運転時間（120～1）</td></tr></table>	コード表示部	データ表示部	PCL	洗浄残り運転時間（120～1）	
コード表示部	データ表示部					
PCL	洗浄残り運転時間（120～1）					
7	室内機から冷風が吹いていることを確認してください。（洗浄運転は冷房運転で行います。）					
8	洗浄運転は2時間必要です。SW3-3をON後、圧縮機の積算運転時間2時間で自動終了します。 終了後は7セグ表示部に以下のコード表示とデータ表示が4秒間隔で交互に表示されます。 手動にて終了する場合、SW3-3をON⇒OFFにしてください。再始動はOFF⇒ONで可能です。 （※洗浄残り運転時間は圧縮機ON累積時間にて表示されます。） <table><tr><td>コード表示部</td><td>データ表示部</td></tr><tr><td>PCL</td><td>END</td></tr></table>	コード表示部	データ表示部	PCL	END	
コード表示部	データ表示部					
PCL	END					
○洗浄運転自動終了後、SW3-3はON位置のままでは通常エアコン制御になりません。SW3-3をOFFにしてください。 ○洗浄運転は一回のみ有効です。洗浄運転終了後（圧縮機の積算運転時間が2時間）はSW3-3をOFF⇒ONにしても洗浄運転は開始されません。 ○SW3-2をONにした場合は、配管洗浄運転後も“ON”設定のままご使用ください。（“OFF”設定とすると配管の耐圧強度不足により破裂の恐れがあります。） ○室内吸込み温度が15℃以下の場合、洗浄運転が断続運転になる場合がありますが、故障ではありません。 この圧縮機が停止している時間は洗浄運転の累積時間に含まれません。						

- 洗浄運転が開始されない場合は以下の内容を確認してください。
- 1) 7セグのデータ表示部に[PCL]⇄[HE]が交互に表示されている。
①電源投入から圧縮機を起動した履歴のない場合、圧縮機保護のため最大で6時間運転しないことがあります。
所要時間経過後に洗浄運転を開始します。
- ②デマンド率の設定を確認してください。デマンド率0%としている場合は洗浄運転を開始できません。
(デマンド率40%、60%、80%の場合は既設配管洗浄を優先して運転します。)
- ③ディップSW設定を確認してください。
SW3-4、3-7、3-8、5-1、5-2、5-3、5-6、5-7、5-8のいずれかが“ON”設定の場合、洗浄運転を開始できません。
- 2) 7セグのデータ表示部に[OP4]が表示されている。
過去に配管洗浄運転の実施履歴がある場合に表示されます。洗浄運転は1回のみの有効で、2回目のご使用になれません。
室外機の移設等で再度洗浄運転を行う必要がある場合は、最寄の代理店にお問い合わせください。



PSC012D060D



2. 既設配管流用時の現地施工手順
- ・リニューアル対象範囲の確認
・既設の制御配線使用可否確認
・既設の冷媒配管使用可否確認
・既設の電源設備使用可否確認
- 【確認・留意事項】
- ・流用する冷媒配管、制御配線、電源設備等の信頼性（老朽化に伴う特性不良等）に関しては、当社としては保証し兼ねますのでご注意ください。
 - ・既設の冷媒配管使用可否確認は、「1(2)既設配管流用可否判断フローチャート」および「1(3)分岐管流用可否判断フローチャート」に基づき実施してください。
 - ・冷媒配管長制御および適用可能配管径等については、「1(2) < 配管使用制限 >」を参照してください。
 - ・室外機～室内機～リモコン間の制御配線に、既設の制御配線を流用する場合は、カタログ・技術資料の「7.既設配線・電源流用に関する確認留意事項」に基づき確認を実施してください。
 - ・電源設備に関しては、室外機、室内機に適合した電圧、相数とし、電源配線接続図に基づく遮断器容量および配線径としてください。
 - ・既設の電源設備（電源配線含む）を使用する場合は、設備の老朽化、破損の有無を必ず確認してください。
 - ・古い配線や電源設備の場合は、漏電や火災の原因ともなりますのでご注意ください。
- 現地準前
- 既設の室外機、室内機、リモコン等取外し
- 室外機、室内機、リモコン等据付電気工事の実施
- 配管工事の実施
- 配管の気密確認
※SW3-2 “OFF” の場合気密試験値は4.15MPa
SW3-2 “ON” の場合気密試験値は3.24MPa
- 配管の真空引き
※-101kPa以下で1時間以上
- 冷媒追加充填
- 配管洗浄運転
- 試運転調整
- 現地準時
- △ 注意
- フレアナットは流用せず本キット及び室外ユニット付属のものを使用し、フレアは必ずR410A用に再加工してください。
 - ※拡張寸法変更に伴いφ12.7,φ15.88のフレアナット対辺寸法が変わります。
 - フレア接続はダブルスパナで締め付け、道正トルクを超えて締めないでください。
 - 新設エアコンを既設配管に接続した後は、気密試験と真空引きを確実に行ってください。
 - ※詳細は、付属している「据付説明書」をご覧ください。

3. 洗浄運転
- ①洗浄運転前の確認事項
- | 据設の項目 | 項目 | 確認項目 | チェック |
|-------|--------|--|------|
| 2 | 冷媒配管工事 | ろう付けした場合は、配管に窒素ガスを流してろう付けしましたか。
気密試験、真空引きは確実に行いましたか。
配管の断熱材は液管とガス管の両方に取付られていますか。
冷媒追加充填量、冷媒配管長さをパネルのラベルに記入しましたか。 | |
| 4 | 電気配線 | 配線の接続忘れ、欠相、逆相はないですか。
冷媒追加充填量、冷媒配管長さをパネルのラベルに記入しましたか。
遮断器、配線などの電気機器は適正容量の機器を使用していますか。
複数設置の場合は、ユニット間の配線がいかわっていませんか。
リモコン線に室内外通信線を接続していませんか。
内外接続線は同一端子番号で接続していますか。
内外接続線は2心のものでか。
アース工事はD種接地（第3種接地）工事が行われていますか。
配線の取付け部のネジが緩んでいませんか。
配線は配線クランプで固定し、端子接続部に外力が加わらないようになっていますか。 | |
| - | 室内ユニット | 室内ユニットの据付作業は完了していますか。
室内ユニットに化粧パネルを取り付ける場合には、化粧パネルの取付が完了していますか。 | |

22

- 8-4. 引き渡し
- 据付、試運転完了後、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの方法を説明してください。また、この据付説明書は取扱説明書とともにお客様にて保管頂くようにご依頼ください。
 - 長時間運転しない場合でも、電源スイッチは切らないようにご注意ください。暖房や冷房運転をしたいときいつでも運転が可能となります。（クランクケースヒータより圧縮機底部が暖められているためシーズインの圧縮機トラブルを防ぐことができます。）
- フロン排出抑制法に基づく管理のお願い（圧縮機の電動機定格出力が7.5kW未満のユニットの場合）
- 本製品を管理（所有）されているお客様へ
- 本製品は「フロン排出抑制法」に定める「第一種特定製品」です。
本製品を使用するにあたり、フロン類の漏えいを防止するため、フロン排出抑制法に基づき本製品の管理者（所有者、または使用等を管理する者）は、次のことを守る必要があります。
- ①機器を設置する時
適切な設置、適正な使用環境を確保すること。
- ②機器を使用している時
適切な設置、適正な使用環境を維持し、確保すること。
機器の簡易（日常）点検を実施すること。
◇簡易点検：定期的な温度および目視による外観の点検です。（3ヶ月に1回以上）
異音・異常振動、外観の損傷、腐食、錆び、油のにじみ、霜つき等の漏えいの徴候を確認します。
- ③フロンの漏えいを発見した時
速やかに漏えい箇所を特定し、修理すること。
機器の修理をせずに充填することは原則禁止。
- ④点検や修理をした後
点検・整備記録簿に点検・修理・充填・回収に関する履歴を記録し、その記録簿を保存すること。
もし、機器の異常を発見した場合、専門的な点検・整備が必要なため、お買い上げの販売店または弊社窓口にご相談ください。
点検・整備記録簿には、機器を設置したときから廃棄するまでの機器の点検や修理、冷媒の充填・回収等のすべての履歴を記録・保存する必要があります。
冷媒の充填・回収には都道府県に登録された「第一種フロン類充填回収業者」への依頼が必要ため、お買い上げの販売店または弊社窓口へお問合せください。
- 本製品を設置する工事業者様へ
- 本製品の据付後、「（冷媒漏えい）点検・整備記録簿」を作成していただき、フロン排出抑制法に基づいて「（冷媒漏えい）点検・整備記録簿」を保管いただくようお客様にご説明ください。

詳細はお買い上げの販売店または弊社窓口へお問合せ、または下記サイトをご覧ください。
フロン排出抑制法の手引き： <http://www.jraia.or.jp/index.html>
冷媒漏えい点検・整備記録簿（含む簡易点検チェックシート）のエクセルシート： <http://www.jarac.or.jp/>

冷媒漏えい点検・整備記録簿										年 月 日 ~ 年 月 日					管理番号			補足事項	
管理 用 者 の 所 属 の 住 所	氏名・名称		系統名						設備製造者		設置年月日 西暦 年 月 日								
	住所								使用機器		分類		型式						
	施設名称		TEL		製番		用途												
	住所		TEL		圧縮機の電動機定格出力 (kW)		合計充てん量合計回収量合計排出量				CO2%								
	運転管理責任者		TEL																
倉 庫 名 住 宅 所 業			TEL				冷媒量 (kg)												
			TEL				使用冷媒		初期総充填量 (kg)										
			TEL																
主要冷媒の GWP値		R11 4750	R12 10900	R32 675	R134a 1430	R22 1810	R123 77	R245fa 1030	R502 4660	R404A 3920	R407A 2110	R407C 1770	R410A 2090	R410B 2230	R152a 124	R142b 2310			
作業 年月日	点検・整備区分	充填量 (kg)		回収量 (kg)	点検内容		点検 結果	漏えい・ 故障の原因	漏えい・ 故障箇所	修理の内容	点検・修理・ 回収・充填業者名	技術者 氏名	技術者 No.	修理困難 理由	修理 予定日				
	出荷時初期充填量																		
	設置時追加充填量																		